

適期刈り取りで高品質・良食味米生産を

6月の低温により生育は遅れていましたが、その後の好天により生育はほぼ平年並みに近づき、出穂期を迎えました。しかし、茎数と葉色に地域及び圃場間の較差が見られています。

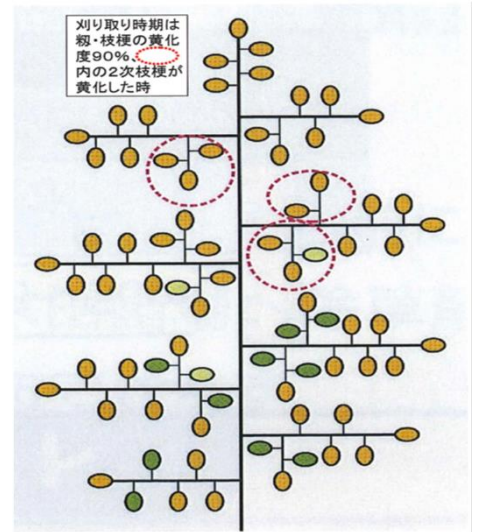
8月2日に平年より5日遅い「梅雨明け」となりましたが、当面の技術対策として、登熟向上と高温時の根の機能減退防止を図るため適切な水管理に努め、適期刈り取りによる高品質で良食味な秋田米生産につなげましょう。

—刈り取り適期の判定—

刈り取り適期は、個々の圃場及び栽培条件で異なるため、出穂後の日数、籾の黄化程度、枝梗の黄化程度や出穂後の積算気温などの判定法を組み合わせで行ってください。

—各判定法の刈り取り目安—

- ① 出穂後の日数：早生品種で45日前後、中晩生品種で50日頃です。
- ② 籾の黄化程度：籾の熟色が黄化程度90%の頃で、この黄化程度は黄色＋黄白色の籾をさします。
登熟期間の積算気温に伴う黄化率は低温年も高温年も同じに推移しますが、高温年では胴割れ率が高くなります。
- ③ 枝梗の黄化程度：穂の主軸の上から5番目の枝梗まで黄化した頃です。
- ④ 出穂後の積算気温：出穂後(翌日)の日平均気温の積算値で、早生品種で950～1,050℃、中晩生品種で1,050～1,150℃を適期の目安となります。



積算気温で早生品種は950℃、中晩生品種で1,050℃を越えると青米割合が10%以下となり、胴割れ米や茶米は、早生品種は1,100℃、中晩生品種で1,200℃を越えると増加します。

右表は出穂期別に刈り取り目安となる積算気温に到達する日を推定したものです。

—刈り取り時期の決定は総合的に判断を—

8月10日発表の東北地方の1カ月予報は、天気は数日の周期で変わり、平均気温は平年並みまたは低い確率が高く(特に、1週目の気温が低い確率が高い)、降水量と日照時間は平年並みとなっています。

実際の刈り取りにあたっては、刈り取り適期の目安目標とする積算気温の到達日とともに積算日照時間も考慮し、籾の熟色と枝梗の黄化程度を確認し総合的に判断してください。

詳細については、最寄りのJAや各県地域振興局農林部の普及担当者にご相談ください。

お問合せは 米穀部 米穀総合課(小松) 018-845-8034 へ

	出穂期	積算気温		
		950℃	1,050℃	1,150℃
鷹 巣	8月2日	9月14日	9月19日	9月25日
	8月5日	9月17日	9月23日	9月30日
	8月8日	9月21日	9月27日	10月4日
秋 田	8月2日	9月11日	9月16日	9月21日
	8月5日	9月14日	9月19日	9月25日
	8月8日	9月18日	9月23日	9月29日
横 手	8月2日	9月11日	9月16日	9月22日
	8月5日	9月15日	9月20日	9月26日
	8月8日	9月19日	9月24日	9月30日

※8月9日までは本年、10日以降は平年平均気温で積算



JA全農あきた 営農支援部 TEL018-864-2462
営農支援課